

Fuji Champion Race Series Round 1

86&BRZ
Round 1

86&BRZクラスは今シーズンも全4戦で行われる。ウェットコンディションでの予選で開幕戦ポールポジションを決めたのは昨シーズン全勝でチャンピオンを決めた77CLUB PANTERA 86 山内正義 2'04.323のタイム。隣には25 KeePerSAMURAI86 鶴飼龍太が並ぶ。決勝スタート時には雨も上がり、ドライコンディションでのスタートとなり、好スタートで周回を重ねるごとに徐々に後続を引き離してゆく77山内、2番手の鶴飼もそれに続くが射程圏内にはなかなか入れない。トップ2台の後ろに等間隔で開いた3番手争いが後半になってバトルが続いていた。54 上野嘉三と53 吉田保裕だが、最終ラップで54 上野が予選順位を守りきりトップ77 山内、2位25 鶴飼、3位54上野の順でチェッカーを受けた。昨シーズンから5連勝となった77山内はレース終了後に「昨シーズンのご褒美で今回乗らせていただくことが出来ました。地元御殿場のスポンサーさんもおついでくれたので、何としてでも負けるわけにはいけませんでした」と喜びのコメント。

RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	77 山内 正義
2	25 鶴飼 龍太
3	54 上野 嘉三
4	53 吉田 保裕
5	47 落合 立成
6	23 前川 佳紀

86&BRZ
Round 2

ワンメイク祭りの中で行われた86&BRZクラス第2戦。土曜日朝一番の予選は小雨の中行われ、トップタイムを出したのは25 KeePerSAMURAI86 鶴飼龍太 2'20.539のタイム、続いて56 86Racer's中山号 中山太雅がフロントローに並ぶグリットとなる。決勝は日曜日最初のレース、スタート時はなんとか天気も持ちドライコンディションでのスタートとなった。1コーナーのバトルを上手く抜けさせた25鶴飼、序盤では56中山と今回から77 CLUB PANTERAに乗った鈴木翔平と47 atc-DXLアバンテ86 落合立成の3台が激しい2番手争いを繰り広げる。10週のレースを終えてトップは逃げ切った25鶴飼、2位には56中山、3位に落合という順にチェッカーを受けた。初優勝の25鶴飼は「全日本カートなどでの優勝経験はありますが、しばらくレースから離れていました。車の仕事は続けているのですがやはり今一度ドライビングテクニックやマシンセッティングなどを勉強したくSAMURAIチームにお世話になり土屋武士さんにいろいろ教わっています。そのすべてがこの結果に結びつきました」と25鶴飼はレース終了後に話していた。

RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	25 鶴飼 龍太
2	56 中山 太雅
3	47 落合 立成
4	77 鈴木 翔平
5	54 上野 嘉三
6	57 平良 浩幸

N1400/N1000/DEMIO(N1)
Round 1

毎回激戦のこのクラス、今シーズン最初のレースでも激しいトップ争いで楽しませてくれた。まず予選トップはN1400 3 TAKUMIワンナイEP82 山田大輔 2'10.765。N1000クラストップが41 マルチクラフトSCP10ブラクト 佐藤英二2'19.179。デミオはお馴染み103 阿部組WMデミオRPM/HのR.P.M/H 2'21.726となった。決勝ではトップ4台が終始団子状態での激しい戦い、一方N1000クラスではトップ争いが後半までもつれ込む。コンマ差でチェッカーを最初に受けたのは4番手スタートからの21スノコμDLマリンAID82 大竹直、N1000クラスでは41 佐藤が巻き返して優勝、デミオは103 R.P.M/Hが逃げ切った。レース後21大竹は「前半は様子を見ていました。大変でしたがとても楽しめました。こういうレースも続けたいので今シーズンも頑張ります」と笑顔で話し、41 佐藤は「ぼちぼちやっていれば良いことがあると落ち着いて走っていたら徐々にポジションを取り返せました」とコメント。その横で103 R.P.M/Hが「そうそう！レースはぼちぼちね！」と笑顔で話していた

RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	21 大竹 直
2	0 戸敷 直人
3	3 山田 大輔
4	222 小野田 篤士
5	72 高橋 ノボル
6	14 川端 聖史

RESULT リザルト N1000

Rank No.	Name
1	41 佐藤 英二
2	28 川井 秀晃
3	2 あおき みのる
4	54 垣生 彬
5	27 山崎 じん
6	39 柿島 昭一

RESULT リザルト DEMIO(N1)

Rank No.	Name
1	103 R.P.M/H
2	8 大谷 淳



Super FJ/FJ1600 Round 1



予選はドライ路面で行われたこのクラス、トップタイムはS-FJ 41 B-MAXエンドレス10V 今井龍太の1'52.135、隣のグリットには88 TeamKRMミストKK-S II Takashi。FJ1600クラスは38オートルックEVOLEX-KH 原田健が2'00.697でトップからのスタート。決勝ではグリットにつく頃に小雨が落ちてきた。そんな中でスタートは切られ、1コーナーへと集団が消えて行く。少し滑りやすくなった路面では各所で順位が変わってゆくが、トップの41の背後には5番手スタートの22 ペースメーカー150WM10V 赤堀憲臣が迫り、6周目にはトップに立つ。FJ1600でも38原田と7 WRS SASAO SK02笹尾徹也の激しい戦いが続くが後半に差し掛かったところで7笹尾が前に出る。22赤堀と41今井の争いは最終ラップまでもつれ込み、コンマ8秒差でトップチェッカーを受けたのは41今井だった。41今井は「スタート失敗してしまいましたが、恵みの雨でお互いにミスをしながらも何とか前に出られました」とコメント。7笹尾は「上を目指す年齢でもないのですが、一昨年くらいから良い仲間恵まれ、楽しいバトルをやらせていただいています」と話していた。



RESULT リザルト Super FJ

Rank No.	Name
1	41 今井 龍太
2	22 赤堀 憲臣
3	48 富田 竜一郎
4	36 神村 悠太
5	35 長谷川 綾哉
6	37 大久保 一成



RESULT リザルト FJ1600

Rank No.	Name
1	7 笹尾 徹也
2	38 原田 健
3	6 鶴若 昂

Super FJ/FJ1600 Round 2



5月17日(土)にスーパーフォーミュラ 第2戦のサポートレースとして開催された第2戦。快晴の中予選が行われ、1'51.523で#61 Rn-SPORTS制動屋KKS 牧野 任祐がポールポジションを獲得。FJ1600クラスでは#7 笹尾 徹也が1'58.740でクラストップとなった。

同日の午後に行われた決勝レース、スタートは#41 B-MAXエンドレス10V 今井 龍太が61 牧野を押さえて1コーナーで前に出るも、ブレーキングミスで#61牧野がトップをキープ。2周目には#22 赤堀に#41今井が抜かれるが、3周目には#41今井が抜き返す。2位争いが行われている間に、トップ#61牧野が徐々にリードを広げ、そのままチェッカーを受け、嬉しい富士初優勝。FJ1600クラスでは、終盤2位の#38原田がクラストップの#7笹尾を追い上げ、さらに#6赤堀も追い上げ、最終周では、3台が2秒の中に。最初にチェッカーを受けたのは#7笹尾。1秒差で#38原田が2位に入り、わずか0.2秒追いつかず3位#6赤堀となった。



RESULT リザルト Super FJ

Rank No.	Name
1	61 牧野 任祐
2	41 今井 龍太
3	22 赤堀 憲臣
4	36 神村 悠太
5	2 安部 哲
6	37 大久保 一成



RESULT リザルト FJ1600

Rank No.	Name
1	7 笹尾 徹也
2	38 原田 健
3	6 赤堀 康裕

AE86/MR2/NA1600 Round 1



今シーズンはAE86/MR2/NA1600の混走となるこのシリーズ、予選総合トップはNA1600 73 ウィナーGウィンちゃんIDI NA6 小宮伸介1'58.473のタイム。MR2トップは78ダイエーモータースDXLMR2 谷田伸行2'03.044。AE86では40 AS柳本アクレSPM86レビン 柳本文彦が2'03.411となっている。スタート直後から各クラス熾烈な戦いとなり、トップ集団も毎周回コマ差で順位が入れ代わる、そんな中、2週目には今回2台しか参加していなかったMR2の2台が接触。2台とも残念ながらリタイアとなってしまった。レース後半になり、トップにたった37四季の森歯科IDIウィナーG86 秋元優範に何とか食らいつく73小宮、AE86では40柳本と240ガレーシア ネックス-μ-レビン 山口崇のトップ争い。勝ったのはNA1600クラスが37 秋元、AE86は40柳本。37秋元は「楽しかったです！2台だけスリックでした。路面も難しい中で勝てて嬉しい」40柳本も「楽しかったー！タイヤが新品でいったので途中でダレると思って先に行かせました。作戦が上手くいった」と喜びを話していた



RESULT リザルト AE86

Rank No.	Name
1	40 柳本 文彦
2	240 山口 崇
3	16 朝倉 潤司
4	17 上條 晃司



RESULT リザルト NA1600

Rank No.	Name
1	37 秋元 優範
2	73 小宮 伸介
3	12 なかむら とつき
4	6 阿波島 武
5	31 高橋 賢一

AE111/ROADSTER Round 1



AE111/ロードスターのNA6/NB6/NCが今年から混走になったこのレース、予選でポールポジションになったのは2'02.222でAE111クラスの78 トウワケミカル高田 ムトレノ 冥賀直文。NA6トップは2'08.600で2 コーンズIDIロードスター 大野俊哉、NB6は今回一台のみの出走となり41 ガレージIワコーズμNB6の奥田裕輔が2.14.063となっている。決勝では好スタートからトップの78冥賀が徐々に後続を引き離しにかかり、その座を奪われることなく10周のレースを逃げ切った。NA6クラスは2 大野が逃げ切ったものの、その背後で激しい2番手争いが最後まで続く、最後は2 大野、24 田辺良輔、11 八田新一の順でチェッカーを受けた。78冥賀は「火曜日にミッションが壊れて、いたわりながら走っていました。速い人が出てこない今のうちに流れに乗って勝てました」と話し、2 大野は「途中雨がパラパラ来てどうなるかと思いました。雨宮さんが金曜にマシントラブルでいつものパターンにならなくて、一台で走ると何かあるのでは?とドキドキしました」と話していた



RESULT リザルト AE111

Rank No.	Name
1	78 冥賀 直文
2	31 安藤 智
3	18 塩岡 雅敏



RESULT リザルト ROADSTER

Rank No.	Name
1	2 大野 俊哉
2	24 田辺 良輔
3	11 八田 新一
4	22 小林 弘典
5	8 福永 健二
6	1 雨宮 恵司

ROADSTER CUP NA6/NA8/NB8 Round 1



ロードスターカップはNA6/NA8/NB8の混走となっている。予選トップタイムはNB8 11 JoyアクレMotys☆NB8 戸田裕一、2'19.949。NA8では総合5番手につけてきた1 大山バリーアクレMotyNA8 山形卓の2'21.248。NA6は総合10番手の7 大山バリーアクレMotyNA6 茂木文明 2'21.863のタイム。決勝スタート時には小雨が落ちていて路面はセミウェット状態、レースはトップから11戸田がそのポジションをキープしたままファステストラップを更新しつつ2位以下を徐々に引き離しにかかる、その後ろの2位争いはかなり激戦となり、レース後半になるとNA8の山形、NA6の茂木もそこに絡むほどの勢いで猛追。トップでチェッカーを受けたのがNB8は11 戸田、NA8が総合でも5番手に入った1 山形、NA6 総合6番手7 茂木という予選トップのドライバーが逃げ切った形のレースになった。11戸田は「2番手が争ってくれていたその隙に」と話し、1山形は「身内バトルが楽しかった、予選でもう少し前に行ってNBクラスと食い込みたい」 NA6 7 茂木は「頑張りました！チームメイトとバトルが出来て楽しかった」と話していた



RESULT リザルト RSC NA6

Rank No.	Name
1	7 茂木 文明
2	23 山川 稯
3	76 辻本 均
4	999 鳥居 武史
5	27 野木 強
6	5 入江 直



RESULT リザルト RSC NA8

Rank No.	Name
1	1 山形 卓
2	88 山田 健介
3	9 横須賀 純一
4	71 山本 純一
5	81 勝とう 常時
6	26 高市 桃介



RESULT リザルト RSC NB8

Rank No.	Name
1	11 戸田 裕一
2	22 山平 健太郎
3	78 赤石沢 清人
4	91 神谷 誠
5	100 芹澤 祥宏
6	3 羽入 大輔

ROADSTER CUP NC/DEMIO RACE/8Beat Round 1



ロードスターカップNC/デミオレース/8Beatクラスだが、さらにロードスターはオープンとチャレンジクラスに、8BeatもJP-2S、JP-2R、JP-3Sと合計6クラスの混走レースとなっている。予選トップは8Beat JP-2R 99 プロコンボジットBLITZ86 古田聡2'13.879、ロードスターではオープンクラス0 モディーズベリケンオートNC 小原健一が2'18.475。デミオは75 145デミオ改withSKR 西山隆がトップタイム。決勝では好スタートで一周目が終わるときにはトップに立った555 AUTOFACTORY86AT たしろじゅんに99古田もびったりついて各所でサイドバイサイドの接戦、3周目に抜き返して再びトップに出る。後半は徐々に引き離し8週のレースを終えた。ロードスターは0小原、デミオも75西山がポールトゥウィンを決めた。99 古田は「スタート失敗でしたがたしろさんのマシンにはリアウィングが無いので、雨が多くなってくれば自分の方がコントロールしやすいと思います」0 小原は「一昨日にシェイクダウンしたばかりのマシンで雨の中、滑らせながら走りました」75西山「オフに練習も重ね、備えてきましたが雨になってしまいました。スタート直後の混乱もなんとか抜けて勝つことが出来、嬉しいです」とコメント



RESULT リザルト RSC NC-0

Rank No.	Name
1	0 小原 健一
2	64 芝本 淳
3	21 新井 敏克
4	7 高橋 裕史
5	80 染谷 浩一
6	25 橋川 学



RESULT リザルト RSC NC-C

Rank No.	Name
1	71 登坂 紀
2	20 田原 大助
3	18 ランマン



RESULT リザルト DEMIO RACE

Rank No.	Name
1	75 西山 隆
2	34 常盤 岳史
3	51 戸田 和彦
4	9 安居 政則



RESULT リザルト 8Beat 2S

Rank No.	Name
1	7 伊藤 毅
2	49 清 充秀
3	85 八講めぐみ
4	8 岸 昭英
5	26 榎本 洋一



RESULT リザルト 8Beat 2R

Rank No.	Name
1	99 古田 聡
2	555 たしろ じゅん



RESULT リザルト 8Beat 3S

Rank No.	Name
1	13 市川 忠康
2	6 坂本 猛彦
3	1 木幡修一郎

NISSAN GT-R Prestige Cup Round 1



GT-R Prestige Cupも今回が開幕戦となっている。今シーズンも田中哲也、藤井誠暢と一緒にレースが出来る。予選でトップだったのはやはり10 藤井、コースレコード更新の1'48.679。続いては25 coin park人と人を豊かに、富田竜一郎 1'48.908でこちらもレコード更新。スターティンググリッドは10藤井と25富田がフロントローに、最後尾に20田中哲也がという形で8週のレースはスタートが切られる。決勝中もコースレコードを更新しながら快調にトップを走る藤井、必死についてゆく25富田だがなかなか差は縮まらない。その後ろでは後半になって表彰台をかけた激しい3位争いが続いている。第1戦のレースを制したのは25 富田、2位には23 SMC横浜GT-R 前川佳紀、3位には8 SwiftWing GT-R 岸本裕之が入った。レース後25富田は「藤井さんにはついて行かなくて・・・でもレースに勝てたのはとても嬉しいです。この経験を次に繋げていきたいです」と笑顔で話していた



RESULT リザルト GT-R

Rank No.	Name
1	25 富田 竜一郎
2	23 前川 佳紀
3	8 岸本 裕之
4	32 Paul Van Loenhout
5	31 今中 大介
6	21 田部 雄剛

Review

Inter Proto Series Round 1 Review

Inter Proto Series

Gentleman Round 1



昨シーズンから始まったこのレース、今シーズンのジェントルマンクラスのレースが最初に行われた。予選でトップタイムだったのは、ジェントルマンクラスとはいえレース経験豊富な19 Pasarレーシングカー Yuke Taniguchi 1'47.963のタイム、続いては昨年から参戦の4 RSS広島トヨペットIPS AKIRAが1'48.963、3番手スタートからは37 KeePerIPS-01 畠中修というグリット順となった。95リジカラIPS 荒聖治が賞典外で最後尾からのスタート、どこまで追いつけるか楽しみなレースとなっている。好スタートでトップを押さえた19 Taniguchi徐々に差を広げてゆくが中段グループでは順位がめまぐるしく変わる接戦に、そこに最後尾から95荒が予選より早いラップタイムで絡んでくるという展開。

15週のレースは19 Taniguchi、95 荒（賞典外）4 Akira 16 渡邊久和の順で終了した。19 Yuke Taniguchiは「勝手がわからないので火曜日からサーキット入りしていたのですが、ドライで走れたのは6周だけ、今日がぶっつけ本番のような感じでしたが、勝ててよかったです」と話していた

Race1



RESULT リザルト Race-1

Rank No.	Name
1	19 Yuke Taniguchi
2	4 AKIRA
3	16 渡邊 久和
4	3 FLYING RAT
5	36 とおる君
6	37 畠中 修

日曜日に行われたジェントルマンクラスのレース2、前日の決勝結果が今回のグリットとなっている。トップは19 Pasar レーシングカー Yuke Taniguchi、4 RSS広島トヨペットIPS AKIRA、16 ララパルーザ 渡邊久和の順となる。また、今回も95 リジカラIPS 荒聖治は最後尾からのスタート。決勝スタート時に雨が上がっていたがまだ路面はウェット状態で気温&路温も上がっていない。2周にわたりSCが入ってのスタートがきられる。トップを守る19Taniguchi、その後ろでは4 AKIRAと16 渡邊が2位争いを続ける。そこに最後尾から95荒が周回ごとに順位を上げ19 Taniguchiに迫ってきた。ラスト3ラップで95荒が前に出るが最終ラップで19Taniguchiが抜きなおしチェッカーを受けた。レース後「前半でマシンに出来る情報表示が出なくなり大丈夫かなと思いついていました。荒さんが来てついていたことなのですが、あのコンスタントラップにつられると一周でタイヤが終わってしまいます。タイヤの上手な使い方をまだまだ勉強しなければ」と話していた

Race2



RESULT リザルト Race-2

Rank No.	Name
1	19 Yuke Taniguchi
2	4 AKIRA
3	3 FLYING RAT
4	36 とおる君
5	37 畠中 修
6	16 渡邊 久和

Pro Round 1



今シーズンからレギュレーションが変更され、プロフェッショナルクラスは8周or15分、10周or20分の2ヒートになり、そのインターバルは10分程、2ヒート目のグリットは1ヒートの順位というレースになった。開幕戦の予選でトップタイムを出したのは1'45.667で4 RSS広島トヨペットIPS 平川亮。続くのは95 リジカラIPS 荒聖治、3 INGING MOTORSPORT 山野直也となった。霧雨が降る決勝スタート、各所で霧も降りてきている。さすがにトップドライバー揃いのレースとあって、きれいに1コーナーへ隊列が消えてゆき、一周目にコントロールラインを最初に踏んだのは4平川、その後ろの2番手争いは37 KeePer IPS-01 中山雄一もからんでかなり激しい。それを尻目に4平川はどんどん差を広げてゆく。第1ヒートは4平川がトップで終了した。第2ヒートは4 平川、37 中山、3 山野の順、一周目に37中山が順位を最後尾まで落としてしまうがそこから怒涛の追い上げを見せ、10周終了後には4 平川、3 山野、37 中山の順でチェッカーを受けた。優勝した4 平川は「スタートも上手いきき、落ちていてレースができました。天候がどちらでも良いように考えてきましたしすべてが上手くいきました」とコメントしている。

Race1



RESULT リザルト Race-1

Rank No.	Name
1	4 平川 亮
2	37 中山 雄一
3	3 山野 直也
4	95 荒 聖治
5	19 黒澤 琢弥
6	16 影山 正彦
7	36 平中 克幸

Race2



RESULT リザルト Race-2

Rank No.	Name
1	4 平川 亮
2	3 山野 直也
3	37 中山 雄一
4	19 黒澤 琢弥
5	16 影山 正彦
6	95 荒 聖治
7	36 平中 克幸